

リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数（分母）	分母のうち、肺血栓塞栓症の予防対策が実施された患者数（分子）	リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率
1,010	890	88.12%

算出方法：
$$\frac{\text{肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数}}{\text{肺血栓塞栓症の予防対策が実施された患者数}} \times 100 \quad (\%)$$

※集計対象：令和7年6月1日から令和8年5月31日までの退院患者であり、一般病棟に1回以上入院した患者

※リスクレベルが「中」以上の手術

…「肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症の診断、治療、予防に関するガイドライン（2017年改訂版）」（日本循環器学会等）に準じて抽出。

※肺血栓塞栓症とは

…心臓から肺に血液を送り込むための肺動脈が、血栓などにより詰まる疾患。

飛行機内での長時間の座位保持などによる、「エコノミークラス症候群」が知られています。

【 指標の説明 】

術後、安静にしていると両下肢の血液が流れにくくなり、そこに血栓が生じやすくなります。その予防として、「弾性ストッキング又は弾性包帯」や「間歇的空気圧迫装置」の使用、「抗血栓薬」の投与、早期離床やリハビリテーションなどの対策を実施しています。